



星光典あぶくま信用金庫飯館支店長(右)から軟骨伝導イヤホンなどの寄贈品を受け取る高橋副村長。

あぶくま信用金庫から村へ 軟骨伝道イヤホンを寄贈

8月9日、村と連携協定を結ぶあぶくま信用金庫から、窓口用軟骨伝道イヤホン一式とウェットティッシュを寄贈していただきました。地域住民サービスの向上に寄与することを目的とし、地域貢献活動の一環として寄贈されたものです。このイヤホンは今後、役場における窓口対応の際、声が聞こえにくい方をサポートできるよう、住民課窓口に設置し貸し出すことを予定しています。

高橋副村長が、同金庫の多岐にわたる貢献に感謝を述べ、村からの感謝状を贈りました。



厳しい暑さの中、長い距離を歩きながら丁寧にゴミを拾って清掃活動を行いました。

道路は大切な社会資本 「道の日」に道路の清掃活動

8月10日、相双建設事務所、道路事業の関連会社、村の関連部署などが参加して、県道原町川線を中心に道路清掃美化作業を行いました。

国土交通省が設ける「道路ふれあい月間」と8月10日の「道の日」に合わせて、毎年行われている美化活動です。道路の建設や維持に関わる皆

さんが集まり、「帰省や観光で村を訪れる皆さんに気持ちよく通行していただきましょう」と申し合わせて、半日にわたり丁寧に清掃を行いました。



護身術の実演や携帯電話からの緊急通報の仕方など、約60人の村民がメモを取りながら受講しました。

犯罪を未然に防ぐ 防犯講話を初開催

8月25日、交流センター「ふれ愛館」にて、『村民のための防犯講話』を開催しました。この講話は村が開催したもので、南相馬警察署飯館駐在所の横倉浩二警部補が、防犯活動をテーマに講話を行いました。家屋を狙った犯罪を防ぐため、少しの外出の際にも施錠をすること、防犯カメラやセンサーライト、防犯砂利の活用など、防犯対策を丁寧に説明していただきました。また、福島県防犯設備協会による防犯グッズの展示イベントも同会場内で行われ、間近で防犯対策を学ぶことができました。

原賠審の県内視察に合わせ 適切な賠償への対応を要望

7月24日・25日、文部科学省の第三者機関「原子力損害賠償紛争審査会」が福島県内の被災地を視察しました。今回の視察は、審査会が見直しを行った中間指針に基づく賠償の実施状況を確認するた



めのもので、飯館村へは同25日に内田貴会長一行が訪れました。村は、会談に合わせて要望書を提出し、被災者の実情に寄り添う賠償が実施されるよう審査会の対応を求めました。



杉岡村長、佐藤村議会議長らが、長泥コミュニティセンターで、審査会の一行と会談を行いました。

産業廃棄物中間処理施設の 立地協定を締結

飯館村クリアセンター隣接地に誘致する産業廃棄物中間処理施設について、村と斎藤運輸工業株式会社が立地協定を締結しました。締結式は、関沢行政区、小宮行政区、八木沢・芦原行政区の各区長を立会人に、8月4日、交流センター「ふれ愛館」で行われました。この中間処理施設は、産業廃棄物の高度な分別と適切な処理を行うことでゼロカーボンなど循環型社会の実現に貢献すると共に、可燃性の廃棄物については村内で焼却処分ができるようになるなど、有益な活用が期待されています。



左から、大和田保男八木沢・芦原区長、齋藤達夫代表取締役、杉岡村長、長井実関沢区長、高橋正一小宮区長

私鉄総連県協議会等から 公共交通に関する要請

8月8日、私鉄総連福島県協議会と私鉄福島交通労働組合相馬支部の連名で、村に対して、公共交通の維持・活性化に向けた要請がありました。

少子高齢化、都市一極集中、地方の過疎化などの影響を受け、公共交通は多くの課題を抱えながら、一方ではその必要性が増しています。今回の要請は、そのような現状に鑑み、利用者の立場に立った公共交通の維持・活性化に向けて、行政に協力関係の強化を求めるもので、組織の各支部が管轄の自治体に要請を行っているとのこと。



私鉄福島交通労働組合相馬支部の近藤貴之支部長(右)が来庁し杉岡村長に要請書を手渡しました。